

## 図書館と県民のつどい埼玉2007

10月27日(土)に、さいたま市民会館うらわで埼玉県図書館協会と埼玉県教育委員会の共催による「図書館と県民のつどい埼玉2007」が開催されました。これまで実施してきた「埼玉県子ども読書活動交流集会」は、今年度からこの事業の一環として行われることになりました。当日は、台風によるあいにくの悪天候となりましたが、それでも696名の方が参加されました。

午前の部の記念講演は、絵本作家の長谷川摂子氏をお迎えし「私の読書と子どもの読書」と題してお話しいただきました。

～長谷川摂子氏の講演録から～



26歳のとき、生きた人間と触れ合う職業として保育士になろうと決めましたが、保育を学んだわけでもない私は「本を読むことで、子どもと心をひとつにする」時間を持つことができました。読み聞かせだけでなく、素話もやりました。

読書というのは基本的に孤独な作業です。本と私、1対1の世界で思考を鍛えていくものです。高校・大学時代になりますと友人たちと感動を語り合う(共有する)ということができるようになります。感動を誤解なく他人に伝えるということはなかなか難しいものですが、保育士として働いているとき、子どもたちと一緒に絵本を読むことにより、読書の感動を共有することができたのです。

お話がおもしろいと子どもたちは動かなくなり、集中してくるのが分かります。私と子どもたちの間の空気がゼリーのように固まってくるのです。ル＝グウインの『ファンタジーと言葉』に「すべての生物は振動している。わたしたちは震えているのだ。」という部分があります。小さな子どもはリズムのある言葉が好きですが、リズムとは振動、生きていることに通じます。「空気がゼリーのように固まる」とは子どもたちと私の振動が合って共振している状態だと思います。

読み聞かせは自分のリズムで入っていくことが大切です。そうすれば自然に物語に入ってゆけ、子どもたちにもそれが伝わります。なぜ読むのか、私は本そのものの楽しみのためだと思います。そのためには子どもと本を共有することが大人にとっても大事なのだと思っています。

午後の部では6つの分科会に分かれ、パネルディスカッションや文庫の活動報告、読み聞かせの研修等が熱心に行われました。



### 編集後記

ボランティアのみなさんの、本音が聞けるようになり、はらはらどきどきわくわく。ボランティアのとらえ方は、さまざま。「なんのため」の部分がぶれないように、こっちもしゃかりせねば。(職員Y)

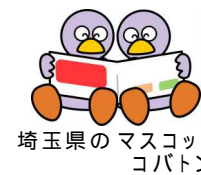
編集発行 埼玉県立久喜図書館  
子ども読書支援センター  
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のホームページ 「子ども読書支援サービス」  
<http://www.lib.pref.saitama.jp/>

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5  
☎ 0480(21)2659(代)  
fax 0480(21)2791



# Shien



埼玉県のマスコット  
コバト

子どもの読書に関わる大勢の方の活動とネットワークを支援(Shien)する そんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

## 第5号

平成20年3月15日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター

### 私の悩み? 「始めてはみたけれど...」

平成17年春、そろそろ職場以外での地域参加がしたいと思い、チラシに目を通して。そば打ち、太極拳、絵手紙...「ん? 子ども読書支援ボランティア?」県立久喜図書館で募集していた。社会貢献の第一歩と、まずは、3日間の事前研修に参加してみた。「子どもと読書」「県立図書館の児童サービス」「ボランティア団体の運営」などの講義を聞いた。いまいよくわからなかったが、とにかく登録した。割り当てられた作業は、新聞クリッピング!? “子ども読書関連”の記事? どこからどこまで? 子ども読書以外にも、興味を引かれる記事が多くて、困った。“読み聞かせ”という言葉が



やたら出てきた。興味を持った。そのうち、地元の町立図書館が「読み聞かせボランティア講座」を開催。受講してみた。子どもたちの前で、トライしてみた。気がついたら、子ども読書支援ボランティアが集めた情報を、利用する側の立場にいた。支援する側と求める側、両方に身を置くことで、ちょっと灯りが見えたような... まだまだ確信までは遠そうだが、もうちょっと付き合ってみるか。



子ども読書支援ボランティアW

### おはなし・読み聞かせ実践講座

このコーナーでは、「おはなしボランティア指導者」の皆さんによる、おはなし会を行う上でのワン・ポイント・アドバイスをリレーでお届けします。



#### 多くの笑顔に会いたくて

私達の読み聞かせの会「かたつむり」は、公民館で開催された講習会の受講者で、平成8年から月一回、公民館での読み聞かせを開始した。その後、平成13年からは4校の小学校で15分の朝読書の時間に、平成17年からは病院、高齢者施設へと活動の輪を広げた。特に高齢者施設では予想のつかない難しさがある。

短いおはなし、高齢者が見やすい色彩の絵本、大型絵本、紙芝居等を持参し、途中で手遊び、歌などを入れてプログラムを組む。個人的には大型の模造紙に「ふるさと」「籠の鳥」など、大正時代に作られ、大流行した歌の歌詞を書き合唱している。

涙を流して感動してくれる人、大声で笑ってくれる人など、集中して聞いてくれる人がいる一方、大声を出したり、席を立ってしまう人も。当初は子どもに比べ、遣り甲斐が無いと思われる部分もあった。しかし、回を重ねる内に

表情が豊かになり、生き生きとした雰囲気を感じられてきた施設もある。私達が何うことで刺激になり、いつもと違う時を過ごして頂けるのではないだろうか。それが興味あるもの、楽しいものであって欲しいと思いきり誤っている。

寮母さんからは「おいでいただかなければ、居眠りをして過ごしてしまう時間かもしれないので、有難いことです。」と感謝の言葉を頂く。

これからも多くの本に出会い、沢山の「おはなし」を覚え、子ども達には「ねえねえ、聞いて聞いて、こんな楽しいおはなしがあるよ。」と伝えてゆき、高齢者には「昼寝をする間もない。」と言いつつも、繰り返し繰り返し本を読んでくれた祖母の姿に重ね、感謝の思いを込めて、沢山の笑顔に出会えるよう、おはなしボランティアを続けてゆきたい。

斉藤富恵

(おはなしボランティア指導者養成講座受講生)



# あいのみ文庫

## 子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介



越谷市地域家庭文庫連絡会は、1983年に12文庫と個人会員21名で発足しました。市からの配本を、各文庫に分配しています。年1回の講演会(市立図書館と共催)と幼児と親を対象とした「親子で楽しむ絵本の世界」を開いています。

### 「あいのみ文庫」

1982年文教大学越谷図書館内児童室に開設されました。今年28年目を迎えます。

あいのみ文庫の特徴は、毎年新しい学生スタッフが参加してくる事です。子ども達に本の貸出や、読み聞かせ、おはなしを語ったり、手話を教えたりしています。

また、おたのしみ会ではチェロやヴィオラの演奏もしました。

今年度は大学から予算を得て、越谷市立図書館、PTA連合会との共催で、幼児を持った親と学校ボランティアを対象とした「絵本の連続講座(11回)」を開きました。

講座の最終まとめとして「本と子ども」をテーマに

教育委員会、PTA連合会、市立図書館、保育所、地域ボランティア等からパネリストを招き意見を出してもらいました。

それぞれの立場で子どもを取り巻く環境の中で今何が大切かを話し合う貴重な機会となりました。来年度も引き続き開く予定です。

また、学校図書館のボランティアに呼びかけて交流会を開いています。小中学校合わせ現在20校が参加しています。本の選び方、プログラムの作り方、各学校の活動状況等をまとめているところです。

通常の活動では、赤ちゃんとママのおはなし会が始まり一昨年から英文科の授業の一環として英語のおはなし会も加わりお母さん達から人気があります。

本の楽しさを子ども達に伝えたい！！

本の楽しさを大人も味わいたい！！

学校図書館司書がいて図書館が生き生き機能しボランティアも生き生き活動できる環境を求めて活動を続けて行きたいと思えます。

あいのみ文庫 代表・塩谷智紗子

## きりぬき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

クリッピング記事の中から、朝日新聞(2007年9月27日19頁)掲載の、「絵本を通じて言葉を豊かに体験させる「ブックスタート」」について紹介したいと思います。

まず、このブックスタートを知っていますか？ ご家庭に赤ちゃんのいる方は知っているかもしれませんね。1992年、イギリスの教育基金団体ブックトラストによって始められました。0歳児健診で絵本を手渡し、赤ちゃんとお母さんやお父さんとのふれあいの時間をサポートするものです。「Share books」を合い言葉に・・・絵本を通じて楽しい時間を「分かち合う」ことが目的です。

日本では、2000年の「子ども読書年」で推進会議が「特定非営利活動法人ブックスタート(NPOブックスタート)」を設立しました。世界で第2カ国目として日本で実施されて以来、韓国やタイ、インドなど世界中にひろがりつつあります。

国内で開始されてから8年目を迎えますが、各市町村に着実に広がりを見せているようです。ここ久喜市でも2006年に子育て支援のひとつとして、3、4か月健診で実施されています。

NPOブックスタート理事長で児童文学者の松居直さんは、記事の中で

「大人が子どもに語りかけるということは、教養や知識を与えるためのものではありません。もっともっと深い行為。子どもたちは絶対に安心できる空間で、言葉を豊かに体験し、生きていく根っこを育てていくのです。子どもたちに生きていく力をつけてもらいたい。絵本はきっとその助けになります。子どもと共に絵本を楽しんでください。言葉を与えてください。」と結んでいます。

すべての赤ちゃんに健やかに成長してほしいですね。

井上(子ども読書支援ボランティア)



Nice to meet you !

子ども読書支援ボランティアです。

埼玉県立図書館のホームページ  
<http://www.lib.pref.saitama.jp/>  
 「子ども読書支援サービス」のページ

このコーナーでは私たち3グループの活動の一端をご紹介します。

## 使えるブックリスト

ブックリスト担当から



ブックリストグループでは、子ども読書支援センターにリクエストがあった「怖いなし」のリストを作成し、HPのリストにそれぞれ加えました。メンバーで読み合わせした時は、絵本の「鬼がら」の、鬼のぬけがらがぬげなくなってしまうところに、ぞっとしました。また、読み物の「あらし」は、主人公の恐怖を、ふきすさぶ嵐があおるという緊迫感があるので、「(少しずつ読んでもらう本)のリストに入れたけど、一気に読んでほしいね」という声があがりました。

子どもたちには、たくさんの本と出会って欲しいので、自分で「おもしろい！」と思った本がシリーズものだった時、どんどん読みすすめてもらえるようにシリーズ名も入れました。

### 怖いなしの読み聞かせ

茂吉のねこ	松谷みよ子	ポプラ社	鬼がら	たかしよいち	岩崎書店
かっぱのめだま	さねとうあきら	理論社	十三夜はおそろしい	梅田俊作・梅田佳子	童心社
そばせい	川端誠	クレヨンハウス	かえるくんのこわい夜	マックス・ヘルジュイス	セーラー出版
ふしぎなやどや	はせがわせつこ	福音館書店	声の森	安房直子	偕成社
ぼくはへいたろう (「稲生物怪録」より)	小沢正	ビリケン出版	しにがみさん (落語「死神」より)	野村たかあき	教育画劇
月のしかえし	ジョン・エイケン	徳間書店	おばけサーカス	さのようこ	銀河社

現在は、時間で分けたリストを作成中です。3分以内、5分、10分、15分等の区切りで、本を持ち寄り、選書をしています。皆さんのお話し会で、より便利に使って頂けたら嬉しいです。

大塚(子ども読書支援ボランティア)

## 知っ得情報!



インターネットからの情報収集担当から

\*\*\* おすすめHP(ホームページ)の紹介 \*\*\*

- えほん大好き <http://www.ehondaisuki.jp/>  
季刊誌「この本読んで!」公式サイト。絵本や読み聞かせに関する情報満載。「育児をするいい男を、イクメンと呼ぼう。イクメンクラブ」は必見です。
- 子育てコープ <http://ikuji.coop/pc/>  
日本生活共同組合連合会の子育てに関するページ。パパ's絵本プロジェクトのコラムなど。
- オーサー・ビジット <http://www.authorvisit.jp/>  
朝日新聞の「オーサー・ビジット」プロジェクトのページ。作者(オーサー)が教室を訪問し、「授業」を行うというもの。これまでの「授業」紹介しています。



子どもの読書に関する情報を見ていると、以前に比べ、お父さんに向けたものや、お父さんが発信する情報を目にするようになってきました。また、子どもたちが読み聞かせをする、といった事例も目にするようになりました。情報を発信する側も求める側も多様になりつつあると感じています。「お役立ち」となるよう皆さまからのご意見・情報をお待ちしております。

大澤(子ども読書支援ボランティア)

